

会員の皆様

緊急事態宣言が解除され、皆様におかれましてはコロナウィルス感染のリスクと闘いながら診療に当たられていることと存じます。

我々医療者としてどのような点に気を付けて診療を行えばよいのか、現在協会では専門家の意見を伺いながらガイドラインを作成しておりますが、それに先立ち海外でエキスパートコンセンサスガイドラインが公表されました。原文はとても長いのですが、必要部分だけ抄訳したものを掲載いたします。

このエキスパートガイドラインは強制力のあるものではありません。また海外の美容外科医の意見を集約したものであり、感染予防の明らかなエビデンスに基づいているものではありませんが、先生方の日常診療の参考になればと思い至急掲載し会員で情報を共有したいと思います。

近日中に協会策定のガイドラインを公表いたしますので、それも併せてご参考にさせていただきます。

2020年 6月10日 日本美容医療協会

出典: COVID-19 Pandemic: Consensus Guidelines for Preferred Practices in an Aesthetic Clinic

Krishan Mohan Kapoor et al. Dermatol Ther . 2020 May 16;e13597.

COVID-19 の感染拡大に伴い、クリニックで患者、医療従事者双方の安全を確保しながら美容皮膚科・外科施術を行うためのガイドラインを作成した。

① 予約診療を行う

原則として電話あるいはオンラインで予約をとる。

クリニックが混雑しないよう時間管理を徹底する。

来院時は単独、あるいは一人の付き添いのみ同行可とする。

(接触者追跡アプリを事前に携帯にダウンロードしてもらい、有効活用する)

② 感染の可能性の有無に関し、事前に患者評価を行う

予約時も含めて事前に詳細な問診を行い、患者背景を洗い出し、

申告内容に虚偽がない旨を宣誓書にサインをもらう。

検温も有効だが、解熱剤服用中であつたり発熱症状を伴わない COVID-19 罹患疑いの患者には無効であると心得る。

③ 美容皮膚科・外科施術に際しての感染リスク分類および安全対策

施術前に COVID-19 感染の有無が検査可能になるまでは、すべての患者が感染している可能性があるとして仮定し、エアロゾルを発生する手技かどうか、身体の中の部位に対する施術か（マスク着用が継続できる部位か否か）、施術に必要な時間を判断基準として、施術に応じた感染リスクを3段階に分類した。

この分類に応じた防護用品を施術スタッフは着用することが推奨される。

一般的には施術中の会話を極力控える、患者の同伴者の同伴は原則的には禁止とし、および介助スタッフもなるべく処置中の入室は避ける。施術時間を最小限とすることが推奨される。

処置が終了する毎に室内のすべての備品・装置を消毒する。

脱毛の患者は自宅であらかじめ剃毛の上来院してもらう。

口唇に対する注入術を施行予定の患者は 1.5%過酸化水素水やイソジンで1分間口をゆすいでもらう。

ハイリスクな処置の時には施術部位を透明なシートで覆ったり吸引機を用いる。

④ スタッフを交代勤務制とし、適切な訓練を行う。

60歳以上の基礎疾患のあるスタッフは患者との接触が限定的な仕事を担当してもらう。

通常の1/2から1/3のスタッフで業務を賄い、交代勤務制とする。

防護装具を支給し、着用させる。

感染リスクを予測するための問診票や宣誓書の取得、社会的距離をとること、手洗いを励行させる。

⑤ 清掃・消毒の徹底

受付に透明なパネルやガラスの仕切りを設ける。

入り口や会計窓口などにできれば非接触式の手指消毒コーナーを設ける。

マスクの着用、できればシューカバーの着用をしてもらう。

待合の椅子は2m程度話す。ソファなどは間隔を開けて着席するよう、中央部は使用できないようにテープなどを貼る。

予約時間まではクリニックの外で待ってもらう

施術者側に風が向かわないよう空調を調整する。

空調に HEPA フィルターを追加する。

雑誌、パンフレット、造花、装飾品などを待合に置かない。

待合、診察室、処置室の清掃を徹底する。

- ・・・床清掃は 1%次亜塩素酸塩ナトリウム液で拭く
- 椅子・PC のキーボード、マウス、レジ、浄水器、カード決済器、電話を消毒する。
- ドアノブ、レーザー機器その他の金属類、トイレは 1 日に 3 から 4 回消毒を行う。
- スプレーで消毒液を吹きかけると圧でエアロゾルが形成されるため避ける。

診察代や椅子はディスポシートで覆い、1 回 1 回交換する。

被覆できないものはその都度消毒する。

物品の洗濯時はマスク・手袋着用とする。

患者に飲食物は原則として提供しない。

(表 1) 問診票および宣誓書

名前

年齢

パートナーの名前

同伴者の名前

居住地

職業

パートナーの職業

最近 15 日以内に当てはまるものがあれば申告する

渡航歴 (出発・帰国日も記載を)

訪れた国および都市、経由地

公共のイベント参加歴

COVID-19 患者との接触歴

発熱の有無

倦怠感の有無

頭痛の有無

咳嗽の有無

呼吸困難の有無
 GI 兆候の有無
 嗅覚障害の有無

施術ごとのリスク分類

低リスク	中等度のリスク	ハイリスク
<p>顔面上 1/3 および顔面以外の注入 (ボトックス、filler など)</p> <p>顔以外に対する脂肪溶解注射</p> <p>体幹・四肢の冷凍脂肪融解術</p> <p>顔面以外に対する ① non-ablative フラクショナルレーザー ② HIFU ③ RF</p> <p>頭皮・体幹・四肢に対する PRP</p> <p>上顔面および体に対する接触冷却装置付きのレーザー脱毛</p>	<p>中顔面および顔面下 1 1/3 に対する注入療法</p> <p>頤周囲に対する脂肪融解注射</p> <p>二重顎に対する冷凍脂肪融解術</p> <p>顔面に対する ① non-ablative フラクショナルレーザー ② HIFU ③ PRP ④ 冷却装置付きレーザー脱毛</p> <p>マイクロニードルを用いた治療</p> <p>スレッドリフト サーマクール</p>	<p>Aerosol や煙を生成するような処置 → QSL PDL Ablative fractional laser</p> <p>接触冷却装置付きではない脱毛レーザー治療</p> <p>炭酸ガスレーザー、電気メスなどを用いた焼灼療法</p> <p>microdermabrasion</p> <p>水光注射など</p> <p>プラズマ装置を用いた治療</p>

LLLT (低レベルレーザー治療) ケミカルピーリング EMS 点滴療法 硬化療法	口唇、外陰部に対する 注入療法、レーザー治療	
---	---------------------------	--

治療リスクに応じて必要な防護装置

	低リスク	中等度リスク	ハイリスク
使い捨て手袋・手術用帽子	要	要	要
靴カバー	可	可	要
ゴーグル	要	要	要
フェイスシールド	可	不要	不要
サージカルマスク	要	不可	不可
N-95 マスク	可	要	要
防護ガウン	可	判断による	要

抄訳作成: 浅岡匠子(グリーンウッドスキンクリニック立川)